

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	岐阜県可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2193100167-00&Servi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事は職員で考え利用者の方に喜ばれるようにアイデアを出して行事を実施している。また、日常生活リズムを大切にしながら四季を感じてもらえる工夫をしています。居室は、個室になっており、ご利用者様が 使い慣れた私物を持ち込むことができます。居室には、思い出の写真や作品等飾られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊重、尊厳、尊信」の理念を掲げ、利用者が今までと同じような暮らし方が家庭的な雰囲気の中で過ごせるように支援している。洗濯物干し、野菜作り、調理の下拵えや裁縫等の利用者ができることや楽しみ事が継続できるようにしている。近隣の子供達に遊び場として駐車場を開放する、野菜や果物をもらう、困り事や入所の相談を受ける、夏祭りに住民を招く等をして地域との交流ができています。コロナ禍でも笑顔で過ごせる方法を、全職員が知恵やアイデアを出し合い試行錯誤しながら、利用者が主体となるようにレクリエーション等への取り組みを工夫している。施設長や管理者に相談しやすい環境にして、職員間も笑顔で絶やさない明るい雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

1階 向日葵ユニット

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰かに聞かれても説明できるようにスタッフ全員で理念を意識し、毎月の会議に理念の確認を行い共有しております。	日々のケアで理念を意識できるように、職員休憩室に掲示している。毎月の会議開始前に唱和し確認している。業務内で態度や言葉遣いが気になる場合は、職員同士が注意し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方による野菜、果物等の差し入れをいただいています。コロナウィルスの関係により、地域の方と一緒に夏祭り、近隣の保育園との交流会等はできずにいます	散歩時に住民と話し野菜や果物をもらっている。近隣の子どもの元気な声や姿が感じられるように駐車場を開放している。歌、楽器、踊りやアニマルセラピーのボランティアと交流していたが現在は中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや、近隣の方、また会議にて地域の方に理解を深めていただき、できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況、取り組み等の詳しい内容を報告し、意見や助言をいただきサービスの向上に努めている。	現在は書面会議とし現況や事故等の報告を行い、返信をもらっている。開設後の年数も浅く、ボランティアの種類や関わり方、地域の情報等をもらっていた。欠席した家族には議事録の閲覧ができるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を取り、相談、助言を受け、関係を築いている。	書類提出時には、担当者に事業所の実情を伝え、介護保険法や制度等については、施設長が市に相談している。市主催の会議や研修は中断している為、メールや電話で情報や助言を得ている。介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、研修した内容を職員間で注意しあっている。また何気ない言葉で利用者様が気づくこともあり、利用者様の気持ちに寄り添う必要がある。	身体拘束廃止に関する指針を定め、3ヶ月に1回委員会を開催し、年2回研修を実施している。帰宅願望のある人には、駐車場や事業所内を一緒に散歩している。言葉遣いや気になったことなどを会議で話し合っているが、委員会としての記録がない。	身体拘束防止委員会として話し合っている内容を記録し、全職員で共有しつつ更に身体拘束への理解を深められることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1人1枚ずつヒヤリハットを記入し、出勤時はヒヤリハットを読みスタッフ全員で情報を共有し虐待防止に努めております。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での勉強会と回覧研修でも勉強を行い学ぶ機会をもっております。ご家族に聞かれてすぐ話せるように資料を用意しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様にご不明な点はないか確認して納得していただき契約している。また利用後起こりうるリスクに関してなど説明し、ご家族の理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や電話やメールで状況報告を行い意向を確認し介護計画や施設の体制に取り入れております。利用者様の要望に応じられるようにご家族の方にも協力を得てサービスの向上に反映させております。	ガラス越しの面会時や電話・メールでも意見や要望を聞いている。要望や意見は申し送り時に職員に伝達したり、介護計画に取り入れられている。行事写真と共に日頃の様子を近況報告書として家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い、職員からの意見や提案を聞き、業務に反映している。また会議以外でも話しをして意見が言いやすい環境を作っている。	日々の業務内でも職員同士や管理者に意見が言いやすい関係ができています。毎月の会議でレクリエーションや行事を提案し検討している。家族への近況報告書送付の提案を取り入れた。職員の希望休を聞きシフトに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようにアットホームな雰囲気笑顔で顔を絶やさぬ職場作りに努めています。介護福祉士等の資格、また日々の努力や実績に応じて正職員への起用に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得の為にサポートをしている。勉強会を行い参加できなかった職員にも回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームとの交流を行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の初期のアセスメントを行い要望を聞き出せるようにし、利用者様主体でケアプランに取り入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期アセスメントを行いご家族様の意向を伺い利用者様と話し合い要望等を取り入れるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にグループホームでの支援が必要か資料と面談に伺い確認し、相談員と話し合いながら対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち利用者様の本意を大切にし残存能力に配慮した対応を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週に1回の面会をケアプランに取り入れ利用者様との関係の継続を断ち切らないようにしております。利用者と家族が不安なく生活できるようスタッフが取りついで対応しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	去年は、外出などしていましたが、今年はコロナウイルス発生のために開催ができていない状況があります。	携帯電話の操作を支援する、事業所の電話で家族と話をする、利用者へ届いた手紙を読む等をして関係が途切れないようにしている。併設する施設の利用者に会いに行く人もいる。以前は家族の協力で美容院、喫茶店や自宅等に行っていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の個性や性格をスタッフが理解し、座る位置や対応に配慮し皆で楽しんで共同生活が送れるように支援しています。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には看護、介護サマリー等お渡しし、ホームでの生活が継続できるように働きかけております。退所されてから様子を伺いに行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いなど傾聴し把握し職員に共有しどのように対応していくか意見を出し合うようにしている。	自分の言葉で思いが言いやすいように、側でゆっくりと聞いている。夜間帯や居室で聞く場合もある。体操、座る場所や好きな事を聞いて叶えている。困難な人には行動や仕草から推測し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	シートを使用しスタッフが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りなどで把握するように努めている、いかにうまく把握できるかを取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で出来ること、出来ないことやそれぞれの利用者様の現状を知り課題となることを話し合っって計画を作成している。	本人と家族の意見や希望を基に医師の意見も参考に介護計画を作成している。介護実施記録やユニット会議で検討し必要時は見直し、申し送りノートで共有している。モニタリングは全職員で話し合い満足度や今後の方向性を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入しているが利用者様の様子が読み取れる程細かくはされていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時の体調や心の状態をみながら柔軟に対応できるように心がけている。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に地域資源を確認しておりますが、なかなか多様な地域資源を活用させることが難しいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し緊急時は希望の病院に搬送して頂けるように看護に伝え情報共有しております。医療行為が必要な場合は看護と相談し対応させて頂いております。	入居時に全員が協力医を希望し変更している。疑問や問題点は「往診ノート」を活用し医師から指示を得ている。専門医受診時は家族同行を基本としているが職員が代行する場合もある。歯科の訪問診療が利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定の結果を看護に伝え、必要時は看護職に再測定して頂いております。日々の気づきを大切に、変化が見られた時は直ぐに看護に報告・相談して主治医に連絡する体制を築いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護・介護サマリーを医療機関に渡し情報共有し、入院中もご家族様に容態を伺ったり、面会に伺わせていただいております。早期退院できるように医療関係者・ご家族様と連携をとって支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族の意向を確認しております。状況に応じ、その都度ご家族様の意向を確認し看護職に情報共有しております。医療行為が必要な場合看護職と相談し対応しております。	重度化した場合の指針を入居時に説明し、事業所でできる範囲を理解してもらっている。状態に合わせて看護師が医師に相談し、家族にも説明して今後の方向性を話し合っている。毎月、血液検査にて栄養状態を把握し、食形態等の指示を受け支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しスタッフで情報共有しております。救急隊員による急変時の対応方法・AEDの使い方の研修を受けて習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の非常口を全てスタッフが周知し、年に2回避難誘導を行っております。備蓄品を用意しローリングストック法を活用しています。	夜間想定も含めて非常階段を使用し、消防署の指導の下で避難訓練を実施している。水、食料、懐中電灯やシート等を常備し、ヘルメットは玄関に備えている。コロナ禍もあり住民の協力が得られていない。	散歩時に住民が声けてもらえる状況や地域に在住する職員の協力はありますが、今後も様々な機会に住民の協力が得られるような働きかけが望まれる。

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しております。丁寧な言葉かけを心掛けています。	これまでの生活歴から推測した過ごし方を尊重し、呼び名も希望に応じている。その人に合わせた言葉遣いをし、トイレ誘導時等は特に不快な思いを与えない声かけをしている。居室の表札や写真は同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の服装、何を飲みたいか等利用者様の意志を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先されている。極力利用者の方の希望に添う様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整髪、整容の声掛け見守り介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずを配食しているのと同じような色になっている。盛り付け、食器拭きは一緒にやって頂けるよう心掛けています。もっと楽しいものになるよう支援が必要。	行事食や献立希望が叶う業者の配食で副食は利用している。ご飯と汁物は事業所で作り、栽培したり頂いたりした野菜を具材にし、炊き込み・釜飯・ちらし寿司や赤飯にする等で工夫している。メニュー書き、下拵えや盛り付け等のできる事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすくするために1人1人形態を考えた支援はできています。水分量の少ない方への支援をもっと考えなくてはいけない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後毎回声掛けをやって頂いております。本人の力に応じたケアをしています。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、1人1人に合わせた支援を行っております。トイレにて排泄できるように声掛け誘導を行っております。	排泄チェック表で確認し、利用者に合わせてトイレ誘導している。日中はトイレ排泄ができるように二人介助、車イス使用やパッドの検討をして、自立できるように支援している。日中布パンツになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し自然排便を促せるように食べ物を工夫しトイレ誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合上、曜日や時間帯の希望には対応できていない。入浴中は自分のペースでゆっくり入っていただけるよう介助している。	利用者の身体状況に合わせて個浴、シャワー浴、足浴や清拭をしている。嫌がる人には時間を空けて声かけの工夫をしている。その人の希望で歌を歌うなど、ゆっくりと入り楽しみな入浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節やパジャマへの更衣など就寝環境を整えている。起床時間は個々に合わせて対応。日中の休憩もその時の状況によって対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の症状の変化、薬の変更、服薬前の氏名確認、声掛けなど常にスタッフ間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活リズムに合わせ休んで頂いたり、体操、好きなことをやって頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様それぞれの状態に応じて、散歩、など楽しんでいただく機会をつくるように心がけている。コロナウィルスが落ち着いたら外出レクなど企画していきたい。	自由な外出はできないが、散歩、ゴミ出し、洗濯物干し、水やりや草取り等で外気に触れる機会を作っている。屋外で会話をしたりお茶を飲んだりもしている。以前は花見、公園や橋等までドライブしていた。家族の協力を得て外食、買い物や自宅等に行っていた。	

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の方が理解してみえるから安心して下さい。お支払いは口座落としで心配ないとお話納得して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室で携帯でお話をされている方もみえます。手紙はタンスの上に置きいつでもみえるようにして、「手紙がありますね」「いいですね」等の声掛けをしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は自分の席を認知しておられ席(自分)に座られると安心してみえます。小鉢への盛り付けをされると達成感を感じられ笑顔がみられます。	利用者と一緒に作成した季節に合わせた塗り絵、壁面飾りや書道作品を飾っている。観葉植物や飾り物を置き、新聞や雑誌を自由に読めるようにしている。室温調整及び随時の換気をし、手指、机や手すり等の消毒を適宜行い、感染予防に努め居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の空間は、確保されておりいつでもやすらぎのあるスペースである。またご近所のような付き合いもできるほどよい距離感である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある小物や写真、机等触れながら安心して暮らしていただく。プライバシーは守っている。	使い慣れたTV、時計やソファを置き、賞状、家族写真、自分の作品や若い時の自分の写真等を家族の意向も聞きながら飾っている。CDを聞いたり、塗り絵をしたり、本を読んだりして居室で自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の状態に見合った活動や自立を促し、安全に過ごせるよう環境の整備はできている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	岐阜県可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2193100167-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

2階 蓮華ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議などでの確認など理念を理解し、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスにより地域の方と一緒にあったイベントはできてないが、施設周りの散歩を通して地域の方より野菜、果物等の差し入れ、お話をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや、近隣の方、また会議にて地域の方に理解をふかめていただき、できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況、取り組み等の詳しい内容を報告し、意見や助言をいただきサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を取り、相談、助言を受け、関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、研修した内容を職員間で注意しあっている。また何気ない言葉で利用者様が気づくこともあり、利用者様の気持ちに寄り添う必要がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い毎月1人1枚ずつヒヤリハットを記入し、出勤時はヒヤリハットを記入し、出勤時はヒヤリハットを読みスタッフ全員で情報を共有し虐待防止に努めています。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での勉強会と回覧研修でも勉強を行い学ぶ機会をもっております。ご家族に聞かれてすぐ話せるように資料を用意しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明する際には、疑問点や不安点、曖昧になりやすい部分を確認しながら説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご利用者とのコミュニケーションを通じて、意見、要望をお聞きして出来ることは取り入れている。ご家族とも面会時、電話にて意見を聴かせていただくように働きかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実際のケアの提供においては職員が主体となり、個々の意見や取り組みが実践出来易いようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを取りやりがいや向上心が持てるようにしている。また、それぞれのプライベートが生きるように希望休等に配慮して改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を活用し、全職員で協議・検討しながらトレーニングできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームとの交流を行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、本人またはご家族からしっかりと話を聴き、要望には出来る限り答えられるように準備をし、安心して入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために情報交換を行い、初期アセスメントにて要望等を取り入れるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態をよくみたくうえで、スタッフと話しをしながら、ご家族にサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と同じ目線にたち、利用者様の気持ちに寄り添った対応を心掛けています。一緒に笑ったり家庭的な雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には精神面・医療面にて報告を行い相談をして、話し合いができる関係創りに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	去年は、外出などしていましたが今年はコロナウィルス発生のために開催ができていない状況があります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や相性を考慮して、食事やレクリエーションの席の配置をしているが、日によっては合わせない時もあり、ご利用者様にお任せすることで上手く納まることもある。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には看護、介護サマリー等お渡しし、ホームでの生活が継続できるように働きかけております。退所されてから様子を伺いに行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ご利用者の気持ちを大切に、希望の実現を目標として、ご本人のペースでの生活を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限りの情報収集を行っている。入所後もご本人またはご家族より更なる情報をいただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々のアセスメント情報に基づき、個々の有する能力を把握してケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で出来ること、出来ないことやそれぞれの利用者様の現状を知り課題となることを話し合っ計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、個別連絡ノート等の記録を記載し、情報を職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時の体調や心の状態をみながら柔軟に対応できるように心がけている。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に地域資源を確認しておりますが、なかなか多様な地域資源を活用させることが難しいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し緊急時は希望の病院に搬送して頂けるように看護に伝え情報共有しております。医療行為が必要な場合は看護と相談し対応させて頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には、いつでも相談、援助が受けられる体制がある。日頃から主治医との関係を良好に保ち、適切に受診や往診ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員との連携はしています。担当医師、担当看護師からも意見を聞き、出来る限り早期退院になるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る事は入居時と必要に応じた際に話し合いを行い、その都度意思確認を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しスタッフで情報共有しております。救急隊員による急変時の対応方法・AEDの使い方の研修を受けて習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の非常口を全てスタッフが周知し、年に2回避難誘導を行っております。備蓄品を用意しローリングストック法を活用しています。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その場に応じた言葉づかいを選択し、利用者の尊厳を保ちながらも、親しみを感じていただけるよう、努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認しながらケアを行い、ご自分で決めていただくことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で声を掛け合い、個々のペースを大切にされたケアの提供に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容等身だしなみに関しては、起床時・離床時に注意を払うように支援している。衣類はご家族持参が基本であり、去年は必要に応じて利用者の方と買い物に行きました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食では中々食事が進まない方には、形態を変えお一人お一人が御自分で食事が出来るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすくするために1人1人形態を考えた支援はできています。水分量の少ない方への支援をどうするかが課題です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に口腔ケアを施行。ご自分で出来る方には促しと見守りを行っている。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせて定期誘導、補助具の使用を行っています。日中はできる限りトイレにて排泄して頂けるように対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が続いてない方は、看護師、医師に相談をして、指示に基づき個々の対応をしています。また、水分を多めに摂っていただいたりして工夫して自然排便を促せるように食べ物の工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務の都合上、曜日や時間の希望には対応できていません。入浴中は自分のペースによりゆっくりと入っていただけるように介助しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節やパジャマへの更衣など就寝環境を整えている。起床時間は個々に合わせて対応。日中の休憩もその時の状況によって対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の症状の変化、薬の変更、服薬前の氏名確認、声掛けなど常にスタッフ間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活リズムに合わせて休んで頂いたり、体操、好きなことをやって頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様それぞれの状態に応じて、散歩、など楽しんでいただく機会をつくるように心がけている。コロナウィルスが落ち着いたら外出レクなど企画していきたい。		

グループホーム 夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の方が理解してみえるから安心して下さい。お支払いは口座落としで心配ないとお話納得して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室で携帯でお話をされる方もみえます。又、電話を希望されれば利用していただいております。知人やご家族への手紙も要望があれば、投函のお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや、ご利用者にとって分かりやすい表示、ふらつきがある方の動線確保の配置、危険とならないような工夫を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどもありゆったりと過ごすことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活に合わせた暮らしが送れる様に、備品や入居時に持参された馴染みの物品を配置して居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる方、見守りの中歩行できる方、一部介助の方それぞれの方に合わせた環境作りを工夫して安全に過ごせるような環境を整えています。		